平成 23 年度　共同研究報告書

インターネット利用と性意識・行動の関係性に関する研究

共同研究担当　　橿淵　めぐみ（筑波大学）
安藤　玲子　（金城学院大学）

1. 研究の概要

近年、青少年が、携帯電話やパソコンを通じ手軽にインターネット（以下、「ネット」と表記）を利用できるようになってきた。それに伴い、ネットを利用することにより、誤った性知識や偏った性意識を持つようになる、性行動の若年化を促進するといった悪影響が懸念されているが、実証研究は乏しい。以上を踏まえ、本共同研究では、携帯電話およびパソコンによるネット利用が青少年の性意識・行動に及ぼす影響について、パネル調査[1]により検討してきた。

研究 1「高校生を対象とする 3 時点の学校調査」では、2009~2010 年度の 2 年間に、高等学校での 3 時点のパネル調査を実施した。その結果、①ネット利用は、高校生の性意識・行動に影響を及ぼす場合があるものの、その影響の強さは、友人・先輩との性的情報交換の影響力に比べ、総じて弱いこと、②ネット利用の影響は、パソコンからの利用ではなく携帯電話での利用で生じる場合が多いこと、③ネットの影響は携帯電話でのフィルタリング設定により防げる場合があること、④学校での性教育とメディア教育は、ネットの影響低減に効果を持つ場合が多いこと、が明らかになった（中間報告を参照）。

しかし、研究 1 では、高等学校での調査であること、調査対象者数と項目数の制限があることなどに起因するいくつかの限界があった。そこで本研究では、15~19 歳の青少年を対象に 2 時点の web 調査を実施し、以下のように研究 1 の限界を克服するとともに、知見の一般化を図った。

（1）研究 1 では、調査対象者数と項目数の制限から、性的なコンテンツに制限されない全般的なネット利用の影響を中心に検討し、ネットを介した性的コンテンツ接触の影響を直接は検討できなかった。性意識・行動の影響源となるコンテンツは性的内容を含むと考えられ、ネット利用の影響を検討する際には、性的コンテンツの影響を区別して議論する必要がある。そこで本研究では、研究 1 と同様の全般的なネット利用に加え、ネットを介した性的コンテンツ接触が青少年の性経験に及ぼす影響を検討する。

（2）（1）と同様の理由から、研究 1 では、ネットを介さない性的メディア利用の影響については検討できなかった。青少年の性意識・行動への情報源はネットに限らず、性的内容を含む動画や雑誌なども主要な情報源であることから、ネット利用の影響を検討する際には、これら従来のメディアの影響と比較して議論する必要がある。そこで本研究では、

[1] パネル調査とは、同一の対象者に同一の質問群を複数回尋ねる調査方法であり、ある程度まで変数間の因果関係を推測することが可能な手法である。

ネットを介さない性的な動画や雑誌への接触が青少年の性経験に及ぼす影響についても検討する。

（3）研究 1 では、高等学校での調査であるため、調査対象者は高校生に限定された。知見の一般化のためには、高校生以外の未成年者も対象に加えた学校以外のフィールドでの調査による検証が必要である。そこで本研究では、15~19 歳の青少年を広く対象とする Web 調査を実施した。

（4）研究 1 では、学校や授業への負担軽減のためパネル調査の各回の間隔を半年間とした。本研究では、3 ヶ月程度の間隔での 2 回の調査を実施し、知見の一般化を目指す。

（5）その他、研究 1 において検討された友人・先輩との日常的な性的情報交換（口コミ）の影響との比較と、ネットの影響を低減する可能性のある対策（教育的介入やフィルタリングなど）の効果については、本研究でも引き続き検討する。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では Web 調査の手法を用い、青少年を対象とする 2 時点のパネル調査を実施した。調査実施時期は、1 回目調査が 2011 年 10~11 月、2 回目調査が 2012 年 2 月であった。調査対象者は 15~19 歳の青少年 715 名（男子 332 名・女子 383 名）、1 回目調査時の平均年齢は 16.99 歳であった。本研究では、以下の目的 1 から目的 8 についての分析結果について報告する。

■目的 1：全般的な（性的コンテンツに限定されない）ネット利用が性意識・行動に及ぼす影響を検討する

ネット利用が青少年の性意識・行動に及ぼす影響を検討するために、研究 1 に引き続き、性的なコンテンツに限らない全般的なネット利用の影響について検討した。

全般的なネット利用は、「コミュニティ・サイト」、「動画サイト」、「自作小説・自作マンガ」のサイト、芸能人などの「公式サイトやブログ」、の 4 ジャンル別に利用量を測定し、これらの合計を全般的なネット利用量の指標とした。性意識としては、「性的寛容さ」、「通過儀礼としての性」、「責任意識」、「性犯罪神話」、「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」、「性的マイノリティに対する偏見」の 6 種類を測定した[2]。性行動としては、2 人きりの「デート」、「キス」、「ペッティング」、「コンドームを使ったセックス」と「コンドームを使わないセックス」（和集合を「セックス経験」の指標とした）の経験を尋ねた。また、青少年が同年代の性経験率を過大視しており、「仲間から遅れたくない」という意識が自身の性経験を促進するという可能性がある。そこで、「同年代のセックス経験の推定値」を男女別に尋ね、性の現状認識の指標とした。

■目的 2：ネットを介した性的コンテンツへの接触が性意識・行動に及ぼす影響を検討する

[2] 「性的寛容さ」は寛容な性規範意識、「通過儀礼としての性」は早期の性経験への憧れ、「責任意識」はセックスに関わる責任感、「性犯罪神話」は性犯罪を合理化し容認する誤った信念、「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」は恋愛至上主義的傾向を測定するものである。

性意識・行動の影響源となるコンテンツは性的内容を含むと考えられ、ネット利用の影響を検討する際には、性的コンテンツの影響を区別して議論する必要がある。そこで、ネットを介した性的コンテンツ接触量を測定し、全般的なネット利用の影響と比較することで、コンテンツによる影響の差異を検討した。

性的コンテンツ接触については、セックス描写を含む動画サイトの「閲覧」と「投稿」、性体験の告白・体験談サイトの「閲覧」と「投稿」など 8 項目について利用量を測定し、これらの合計をネットを介した性的コンテンツ接触量の指標とした。

■目的 3：ネットを介さない性的動画・性的雑誌への接触が性意識・行動に及ぼす影響を検討する

青少年の性意識・行動への情報源はネットに限らず、性的内容を含む動画や雑誌なども主要な情報源であることから、ネット利用の影響を検討する際には、これら従来のメディアの影響と比較して議論する必要がある。そこで、ネットを介さない性的な動画や雑誌への接触量を測定し、全般的なネット利用の影響と比較することで、メディアによる影響の差異を検討した。

性的動画接触については、恋愛やセックスを含むテレビや映画、アダルトビデオなどの性的動画に関する 4 項目について接触量を測定し、これらの合計を性的動画接触の指標とした。同様に性的内容を含むマンガや小説、アダルトグラビア誌などの性的雑誌に関する 4 項目について接触量を測定し、これらの合計を性的雑誌接触の指標とした。

■目的 4：友人・先輩との性的情報交換が性意識・行動に及ぼす影響を検討する

青少年の性意識・行動への影響源としてネット利用の悪影響が懸念されているが、青少年の性情報源として最も多いのは「友人・先輩」であり（門本・大木・卜部, 1998）、これらの日常的な性的情報交換が性意識の形成に大きな役割を果たすことが指摘されている（湯川・泊, 1999）。そこで、研究 1 に引き続き、友人や先輩との性的情報交換が性意識・行動に及ぼす影響を検討し、ネット利用の影響と比較した。性的情報交換量は、友人や先輩（同性と異性）との性的内容を含む会話量を尋ねる 2 項目の合計得点を指標とした。

＜目的 1 および 2 において有意な影響関係が見られた場合には、以下の分析も行う＞

■目的 5：性意識・行動に影響を及ぼすネット利用の特徴を検討する

パソコンと携帯電話でのネット利用のどちらがより強い影響を持つのか、そしてどのようなジャンルやサイトへの接触が、より強い影響を持つのかを検討した。

■目的 6：ネット利用の影響の強さが、フィルタリング・ソフトの利用により異なるかを検討する

携帯電話及びパソコンでのネット利用におけるフィルタリング・ソフトやアプリの設定

の有無によって、ネット利用の影響が強まる／弱まるのかを検討した。

■目的 7：ネット利用の影響の強さが、学校での教育的取り組みにより異なるかを検討する

学校での「性教育」および「メディアの安全な利用に関する教育」の実践によって、ネット利用の影響が強まる／弱まるのかを検討した。

■目的 8：ネット利用の影響の強さが、科学的な性知識量と性的メディア・リテラシの個人差により異なるかを検討する

個人差変数（科学的な性知識量、性的なメディア・リテラシ）の高低によって、ネット利用の影響が強まる／弱まるのかを検討した。科学的な性知識量の指標は、性行動に関わる科学的知識の理解度を測定する 16 項目の合計得点とした。性的メディア・リテラシの指標は、ネット上や出会い系のリスク認知や、ネット上の性に関する言説に対する批判的思考力などを測定する 10 項目の合計得点とした。

3. 本研究のサンプルの特徴

目的 1~8 の分析に先立ち、研究 1（中間報告）と本研究でのサンプルの特徴を明確にするために、ネットを含むメディア利用の基礎統計量や、ネット利用時に主に使用する端末（パソコン／携帯電話）の違い、フィルタリングの設定状況、性教育やメディア教育の状況について各研究の結果を集計した。

3-1. ネット利用の端末とフィルタリングの設定状況

■研究 1 での携帯電話所有率は 97.1%であった。本研究での所有率は、携帯電話が 76.5%、スマートフォン（スマホ）が 17.2%、スマホと携帯電話の複数所持率が 4.5%であった。研究 1 と本研究ともに 90%以上が携帯電話（スマホ含む）を所有し、本研究では 20%がスマホを所有していた。

■ネット利用で主に使用する端末は、研究 1 では「パソコン」が 37.6%、「携帯電話」が 60.4%、「使用しない」が 2.0%であるのに対し、本研究では「パソコン」が 76.1%、「携帯電話（スマホ含む）」が 23.9%であった。本研究の調査対象は、Web 調査モニターであるため、ネット利用を主にパソコンから行っている層であることが示された。

■本研究において、ネット利用で主に使用する端末がパソコンと回答した割合は、スマホ所有者では 61.8%、非所有者では 79.0%であった。本研究ではパソコンからのネット利用が中心であるが、スマホ所有者はスマホを主に利用している場合もあることが示された。

■フィルタリング・ソフトやアプリの利用状況は、研究 1 では、パソコンと携帯電話の両方とも設定しているのが 7.5%、パソコンのみが 6.6%、携帯電話のみが 19.8%であった。本研究では、両方が 9.7%、パソコンのみが 8.8%、携帯電話のみが 21.9%であった。

3-2. 全般的な（性的コンテンツに限定されない）ネット利用

■研究 1 と本研究ともに、全般的な（性的コンテンツに限定されない）ネット利用量は、男子よりも女子の方が多かった（表 1 参照）。

■全体及び女子では、研究 1 よりも本研究の方が全般的なネット利用量が少なく、男子では逆にネット利用量が多かった。

全体及び女子では、研究 1 よりも本研究の方が全般的なネット利用量が少なかったが、動画サイトの利用のみ多かった。男子では逆に、研究 1 よりも本研究の方が、ネット利用量が多かったが自作小説・マンガのみ少なかった。

■本研究において、スマホ所有者は非所有者よりも全般的なネット利用量が多く、動画サイトのみ非所有者よりも利用量が少なかった（表 2 参照）。

表 1　全般的な（性的コンテンツに限定されない）ネット利用量の平均値

	研究 1			本研究		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子
全般的なネット利用	6.70	4.88	7.80	6.28	5.25	7.16
コミュニティ・サイト（SNS）	2.08	1.41	2.49	1.84	1.46	2.18
動画サイト	2.33	2.33	2.32	2.70	2.61	2.77
自作小説・マンガ	1.17	0.64	1.50	0.89	0.48	1.24
公式サイト・ブログ	1.12	0.50	1.49	0.85	0.70	0.97

注　1 週間の平均利用時間を、使っていない（0）、10 分未満（1）、10 分以上 30 分未満（2）、30 分以上 1 時間未満（3）、1 時間以上 2 時間未満（4）、2 時間以上 3 時間未満（5）、「3 時間以上（6）」の 7 件法で尋ねた。

表 2　スマホ所有の有無別の、全般的なネット利用量の平均値

	なし	あり
全般的なネット利用	6.20	6.66
コミュニティ・サイト（SNS）	1.81	2.02
動画サイト	2.71	2.61
自作小説・マンガ	0.85	1.08
公式サイト・ブログ	0.83	0.95

3-3.　ネットを介した性的コンテンツへの接触

■本研究において、ネットを介した性的コンテンツへの接触量は全体的に少なく、女子では特に少なかった（表 3 参照）。

表 3　ネットを介した性的コンテンツへの接触量の平均値

	全体	男子	女子
ネットを介した性的コンテンツへの接触量	1.94	3.19	0.85
セックス描写を含む動画サイトの閲覧	0.86	1.47	0.33
セックス描写を含む動画サイトへの投稿	0.12	0.24	0.02
セックスのテクニックを教えるサイトの閲覧	0.20	0.34	0.09
性体験の告白・体験談サイトの閲覧	0.32	0.44	0.21
性体験の告白・体験談サイトへの投稿	0.11	0.17	0.06
出会い系サイトの閲覧	0.08	0.15	0.01
出会い系サイトの書き込み	0.07	0.16	0.00
恋愛体験ができるオンライン・ゲームへの参加	0.18	0.23	0.13

注　1 ヶ月の平均利用日数を、全くしない（0）、4 週間に 1 日（1）、3 週間に 1 日（2）、2 週間に 1 日（3）、週に 1 日（4）、週に 2～3 日（5）、週に 4～5 日（6）、週に 6～7 日（7）、の 8 件法で尋ねた。

■スマホ所有者は非所有者よりも、ネットを介した性的コンテンツへの接触量が多かった（表 4 参照）。

表 4　スマホ所有の有無別のネットを介した性的コンテンツへの接触量の平均値

	なし	あり
ネットを介した性的コンテンツへの接触量	1.64	3.34
セックス描写を含む動画サイトの閲覧	0.77	1.27
セックス描写を含む動画サイトへの投稿	0.09	0.28
セックスのテクニックを教えるサイトの閲覧	0.17	0.34
性体験の告白・体験談サイトの閲覧	0.28	0.51
性体験の告白・体験談サイトへの投稿	0.07	0.28
出会い系サイトの閲覧	0.05	0.21
出会い系サイトの書き込み	0.05	0.21
恋愛体験ができるオンライン・ゲームへの参加	0.16	0.24

3-4. ネットを介さない性的動画・性的雑誌への接触

■本研究において、ネットを介さない性的動画・性的雑誌への接触量は全体的に少なかった。男子の性的動画接触量が女子に比べ若干多いが、雑誌接触量は同程度であった（表 5 参照）。

表 5　ネットを介さない性的動画・性的雑誌への接触量の平均値

	全体	男子	女子
ネットを介さない性的動画への接触量	1.85	2.06	1.68
恋愛やセックスを含むテレビドラマ	0.73	0.50	0.93
恋愛やセックスを含む映画	0.43	0.37	0.48
セックス描写を含むアニメ	0.39	0.58	0.23
アダルトビデオ（DVD）	0.30	0.60	0.04
ネットを介さない性的雑誌への接触量	1.65	1.69	1.62
セックス描写を含むマンガ	0.76	0.75	0.77
セックス描写を含む雑誌	0.22	0.32	0.13
セックス描写を含む小説	0.54	0.37	0.69
アダルトグラビア誌	0.13	0.25	0.02

注　1ヶ月の平均利用日数を、全くしない（0）、4 週間に 1 日（1）、3 週間に 1 日（2）、2 週間に 1 日（3）、週に 1 日（4）、週に 2～3 日（5）、週に 4～5 日（6）、週に 6～7 日（7）、の 8 件法で尋ねた。

3-5. 学校での性教育およびメディア教育の受講状況

■研究 1 において、1-2 時点間に学校で性教育に関する授業や講演を受けた者は 65.3%、2-3 時点間は 34.6%であった。本研究では、性教育の受講経験者は 17.4%であった。

■研究 1 において、1-2 時点間に学校でメディアの安全な利用に関する授業や講演を受けた者は 22.9%、2-3 時点間は 18.6%であった。本研究では、メディア教育の受講経験者は 14.0%であった。

4. 研究の主な結果

目的 1（全般的なネット利用が性意識・行動に及ぼす影響を検討する）の結果

全般的なネット利用が性意識（性の現状認識・性意識）に及ぼす影響について、1 回目調査の性意識とネット利用を独立変数、2 回目調査の性意識を従属変数とする重回帰分析により検討した。また、性行動に及ぼす影響については、経験の有無を尋ねる 2 値変数であるため、1 回目調査での各性行動の経験が「無い」者を対象とし、1 回目調査のネット利用を独立変数、2 回目調査の性行動を従属変数とするロジスティック回帰分析によって検討した[3]。なお、性差が予想されるため、分析は男女別に行われた。

■男子において、全般的なネット利用は、同年代の「性の現状」をより活発な方向へ認識させる効果を持っていた。

1 回目の全般的ネット利用量が多い男子ほど、2 回目の同年代男子のセックス経験率を高く推定していた（β=.13, p<.01）。男子では、同年代女子のセックス経験率の推定値と、すべての性意識および性行動の経験への影響は検出されなかった。

■女子において、全般的なネット利用は、性意識の「性的寛容さ」を低め、「性的マイノリティへの偏見」を強める効果を持っていた。いずれの影響も、性的に保守的になるという方向であり、ネット利用が青少年の性的活動を開放的にするというものではなかった。

1 回目の全般的ネット利用量が多い女子ほど、2 回目の性的寛容さが低く（β=-.10, p<.05）、性的マイノリティに対する偏見が高かった（β=.08, p<.05）。女子では、その他の性意識と、同年代男女のセックス経験率の推定値、すべての性行動への影響は検出されなかった。

目的 2（ネットを介した性的コンテンツへの接触が性意識・行動に及ぼす影響を検討する）の結果

ネットを介した性的コンテンツへの接触が性意識・行動に及ぼす影響について、目的 1 と同様の分析を行った。

■男子において、ネットを介した性的コンテンツ接触は、同年代女子の「性の現状」をより活発な方向へ認識させ、性行動の経験を促進する効果を持っていた。

1 回目のネットを介した性的コンテンツ接触が多い男子ほど、2 回目の同年代女子のセックス経験率を高く推定し（β=.31, p<.001）、ペッティング、セックス全体、コンドームありおよびコンドームなしのセックスの経験が増えていたが（OR=1.10~1.19, p<.001~.05）、性意識への影響は検出されなかった。また、女子では有意な効果は検出されなかった。

---

[3] β（標準化偏回帰係数）は－1 から 1 の範囲の値をとり、符号が+の場合に正の効果（強める効果）が、－の場合に負の効果（弱める効果）があることを意味する。オッズ比は 0 以上の値をとり、1 よりも大きい場合に正の効果が、1 よりも小さい場合に負の効果があることを意味する。

目的 3（ネットを介さない性的動画・性的雑誌への接触が性意識・行動に及ぼす影響を検討する）の結果

性的雑誌・性的動画への接触が性意識・行動に及ぼす影響について、目的 1 と同様の分析を行った。

目的 3-1　ネットを介さない性的動画への接触が性意識・行動に及ぼす影響

■男子において、性的動画接触は、同年代女子の「性の現状」をより活発な方向へ認識させ、性行動の経験を促進する効果を持っていた。

1 回目の性的動画接触が多い男子ほど、2 回目の同年齢の女子のセックス経験率を高く推定し（β=.25, p<.001）、セックス全体、コンドームあり及びコンドームなしのセックスの経験が増えていた（OR=1.15~1.22, p<.001~.05）。女子では、性の現状認識と性行動に対する有意な効果は検出されなかった。

■女子において、性的動画接触は、性意識の「責任意識」と「性的マイノリティへの偏見」を強める効果を持っていた。いずれの影響も、性的に保守的になるという方向であり、性的な動画が女子の性的活動を開放的にするというものではなかった。

1 回目の性的動画接触が多い女子ほど、2 回目の責任意識と性的マイノリティに対する偏見が高かった（β=.09~.14, p<.01~.05）。男子では、性意識に対する有意な効果は検出されなかった。

目的 3-2　ネットを介さない性的雑誌への接触が性意識・行動に及ぼす影響

■男女ともにおいて、性的雑誌接触は、同年代の「性の現状」をより活発な方向へ認識させる効果を持っていた。

1 回目の性的雑誌接触が多い男子ほど、2 回目の同年代女子のセックス経験率の推定値が高かった（β=.30, p<.001）。また、1 回目の性的雑誌接触が多い女子ほど、2 回目の同年代男子のセックス経験率を高く推定していた（β=.10, p<.05）。

■女子において、性的雑誌接触は、性意識の「通過儀礼」と「性犯罪神話」を低め、「責任意識」と「性的マイノリティへの偏見」を強める効果を持っていた。いずれの影響も、性的に保守的・抑制的になるという方向であり、性的雑誌との接触が女子の性的活動を開放的にするというものではなかった。

1 回目の性的雑誌接触が多い女子ほど、2 回目の通過儀礼と性犯罪神話が低く（β=-.10~-.09, p<.05）、責任意識と性的マイノリティに対する偏見が高かった（β=.11~.12, p<.01~.05）。男子では、性意識に対する有意な効果は検出されなかった。

■男子において、性的雑誌接触は、性行動の経験を促進する効果を持っていた。

1 回目の性的雑誌接触が多い男子ほど、2 回目のセックス全体、コンドームありおよびコ

ンドームなしのセックスの経験が増えていた（OR=1.14~1.16, p<.001~.01）。女子では、性行動に対する有意な効果は検出されなかった。

目的 4（友人・先輩との性的情報交換が性意識・行動に及ぼす影響を検討する）の結果

友人や先輩との性的情報交換が性意識・行動に及ぼす影響について、目的 1 と同様の分析を行った。

■男女ともにおいて、友人・先輩との性的情報交換は、同年代の「性の現状」をより活発な方向へ認識させる効果を持っていた。

1 回目の友人・先輩との性的情報交換量が多い男子ほど、2 回目の同年代女子のセックス経験率を高く推定し、1 回目の性的情報交換量が多い女子ほど、2 回目の同年代男女のセックス経験率を高く推定していた（β=.09~.18, p<.001~.05）。

■男女ともにおいて、友人・先輩との性的情報交換は、性行動の経験を促進する効果を持っていた。

1 回目の友人・先輩との性的情報交換量が多い男子ほど、2 回目のキス、ペッティング、セックス全体、コンドームありのセックス経験が増加し、1 回目の友人・先輩との性的情報交換量が多い女子ほど、2 回目のデート、セックス全体、コンドームありのセックス経験が増加していた（OR=1.20~1.30, p<.001~.05）。

■男女ともにおいて、友人・先輩との性的情報交換は、開放的・促進的な性意識を強める効果を持っていた。

男子では、1 回目の友人・先輩との性的情報交換量が多いほど、2 回目の性的寛容さが高かった（β=.11, p<.05）。女子では、1 回目の友人・先輩との性的情報交換量が多いほど、2 回目のロマンティック・ラブ・イデオロギーが高かった（β=.11, p<.05）。その他の性意識への影響は検出されなかった。

目的 5（性意識・行動に影響を及ぼすネット利用の特徴を検討する）の結果

目的 5-1　ネット利用の端末の効果

ネットを利用する際に、スマホを含む携帯電話とパソコンのどちらを使うかによって、影響の強さが変わるかを検討するために、ネット利用を主に携帯電話から行う「携帯電話利用群」と、主にパソコンから行う「パソコン利用群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響におけるネット利用の端末の効果

■女子の全般的ネット利用は、パソコンよりも携帯電話から行う場合に、「性的寛容さ」を低め「性的マイノリティへの偏見」を強める影響を及ぼしていた。

女子の結果では、「携帯電話利用群」でのみ、全般的ネット利用が性的寛容さを低め（β=-.26, p<.01）、性的マイノリティに対する偏見を高める効果が見られ（β=.20, p<.01）、「パソコン利用群」では有意に至らなかった。男子の「性の現状認識」への影響については、両群の間に効果の違いが明確にならなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響におけるネット利用の端末の効果

■男子のネットを介した性的コンテンツ接触は、携帯電話よりもパソコンから行う場合に「性の現状」をより活発な方向へ認識させる効果を持っていた。

男子の結果では、「パソコン利用群」でのみ、性的コンテンツ接触が多いほど同年代女子のセックス経験率を高く推定する効果が見られ（β=.33, p<.001）、「携帯電話利用群」では有意に至らなかった。性経験への影響については、両群の間に効果の違いが明確にならなかった。

目的 5-2　接触するジャンルやサイト、利用方法の効果

どのようなジャンルやサイトに接触する場合に影響が見られるかを検討するために、全般的ネット利用については「コミュニティ・サイト」、「動画サイト」、「自作小説・自作マンガ」のサイト、芸能人などの「公式サイトやブログ」、の 4 ジャンル別のネット利用の影響を分析した。また、ネットを介した性的コンテンツ接触については、セックス描写を含む動画サイトの「閲覧」と「投稿」、性体験の告白・体験談サイトの「閲覧」と「投稿」など 8 項目別に影響を分析した。

（1）全般的ネット利用の影響における利用ジャンルの効果

■男子の全般的ネット利用は、コミュニティ・サイトと動画サイトを利用する場合に「性の現状」をより活発な方向へ認識させる効果を持っていた。

男子の結果では、コミュニティ・サイトと動画サイトを利用するほど同年代男子のセックス経験率を高く推定していた（β=.11~.12, p<.01~.05）。自作小説・マンガのサイトと公式サイト・ブログの効果は有意に至らなかった。

■女子の全般的ネット利用は、動画サイトと自作小説・マンガのサイトを利用する場合に「性的寛容さ」を低め「性的マイノリティへの偏見」を強める影響を及ぼしていた。

女子の結果では、自作小説・マンガのサイトを利用するほど性的寛容さが低まり（β=-.11, p<.01）、動画サイトを利用するほど性的マイノリティに対する偏見が強まっていた（β=.09, p<.05）。その他のジャンルでのネット利用の効果は有意に至らなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響における利用サイトと利用方法の効果

■男子のネットを介した性的コンテンツ接触は、どのタイプのサイトをどのように利用するかに関わらず、「性の現状」をより活発な方向へ認識させ、性行動の経験を促進する効

果を持っていた。

男子の結果では、セックス描写を含む動画サイトの「閲覧」の効果がやや弱いものの（β=.10, p<.05）、8 項目のすべてについて、利用するほど同年代女子のセックス経験率を高く推定する効果が有意であった（β=.10~.34, p<.001~.05）。性行動の経験についても同様に、8 項目のほぼすべてについて、コンドームあり、コンドームなし、およびセックス全体の経験を促進する効果が有意であった（OR=1.37~2.96, p<.001~.01）。ただし、ペッティング経験への影響については、いずれのサイトの効果も有意に至らなかった。

目的 6（ネット利用の影響の強さが、フィルタリング・ソフトの利用により異なるかを検討する）の結果

目的 6-1　携帯電話でのフィルタリング・ソフトの設定の効果

スマホを含む携帯電話でのフィルタリング・ソフトやアプリの設定により、ネット利用の影響が低減されるかを検討するために、1 回目調査時にフィルタリング・ソフトやアプリを設定していた「携帯設定あり群」と、設定していなかった「携帯設定なし群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響における携帯電話でのフィルタリング・ソフトの設定の効果

■男女ともにおいて、携帯電話でのフィルタリング・ソフトの設定の効果は明確にならなかった。

男子の性の現状認識および女子の性意識に対する全般的ネット利用の影響は、「携帯設定あり群」と「同なし群」ともに有意に至らず、携帯電話でのフィルタリングの効果は明確にならなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響における携帯電話でのフィルタリング・ソフトの設定の効果

■男子において、ネットを介した性的コンテンツ接触が「性の現状」を活発な方向に認識させる影響は、携帯電話でのフィルタリング・ソフトの設定により低減されたが、性行動の経験を促進する影響では逆効果となっていた。

男子の結果では、性的コンテンツ接触が同年代女子のセックス経験率の推定に及ぼす影響は「携帯設定あり群」では有意に至らず、「同なし群」でのみ見られた（β=.46, p<.001）。

しかし、性行動の経験に関しては、「同あり群」において、コンドームありのセックス、コンドームなしのセックス、及びセックス全体の経験への影響がすべて有意となった（OR=1.15~1.22, p<.01~.05）。一方、「同なし群」ではコンドームありのセックスのみ有意であり、かつ、影響は「同あり群」に比べ弱まっていた（OR=1.13, p<.05）。

目的 6-2　パソコンでのフィルタリング・ソフトの設定の効果

パソコンでのフィルタリング・ソフトの設定により、ネット利用の影響が低減されるかを検討するために、1 回目調査時にフィルタリング・ソフトを設定していた「PC 設定あり群」と、設定していなかった「PC 設定なし群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響におけるパソコンでのフィルタリング・ソフトの設定の効果

■男女ともにおいて、全般的ネット利用が「性の現状」を活発な方向に認識させ、性意識を保守化させる影響は、パソコンでのフィルタリング・ソフトを設定している場合に検出されることが多く、逆効果となっていた。

男子の結果では、同年代男子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「PC 設定なし群」では有意に至らず、「同あり群」でのみ見られた（β=.33, p<.001）。女子の結果では、性的寛容さ（β=-.22, p<.05）へのネット利用の影響は「同あり群」でのみ見られ、「同なし群」では有意に至らなかったが、性的マイノリティに対する偏見への影響に関しては、フィルタリング設定の効果は明確にならなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響におけるパソコンでのフィルタリング・ソフトの設定の効果

■男子において、性的コンテンツ接触が「性の現状」を活発な方向に認識させ、性行動を促進する影響は、パソコンでのフィルタリング・ソフトを設定する場合に低減されることが多かった。

男子の結果では、同年代女子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「PC 設定あり群」では有意に至らず、「同なし群」でのみ見られた（β=.42, p<.001）。同様に性行動の経験については、「同なし群」において、セックス（コンドームあり、なし、全体）の経験への影響が有意となった（OR=1.13~1.21, p<.01~.05）。「同あり群」では「セックス全体」と「コンドームありのセックス」への影響は有意であったが、「同なし群」に比べ弱い傾向にあった（OR=1.18, p<.05）。ペッティング経験への影響については、効果が明確にならなかった。

目的 7（ネット利用の影響の強さが、学校での教育的取り組みにより異なるかを検討する）の結果

目的 7-1　学校での性教育実践の効果

学校での性教育実践によってネット利用の影響が低減されるかを検討するために、1~2 回目調査の間（2 回目調査の直近の 3 ヶ月間）に、学校で性教育に関する授業や講演を受けた「性教育あり群」と、受けなかった・受けたかわからない「性教育なし群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響における性教育実践の効果

■男女ともにおいて、全般的ネット利用が「性の現状」を活発な方向へ認識させ、性意識を保守化させる影響は、学校での性教育実践により低減されていた。

男子の結果では、同年代男子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「性教育あり群」では有意に至らず、「同なし群」でのみ見られた（β=.16, p<.01）。女子の結果では、性的寛容さ（β=-.13, p<.01）と性的マイノリティに対する偏見（β=.09, p<.05）へのネット利用の影響は「同なし群」でのみ見られ、「同あり群」では有意に至らなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響における性教育実践の効果

■男子において、ネットを介した性的コンテンツ接触が「性の現状」を活発な方向へ認識させる影響は、学校での性教育実践により低減されていた。しかし、性行動への促進的影響については、効果が明確にならなかった。

男子の結果では、同年代女子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「性教育あり群」では有意に至らず、「同なし群」でのみ見られた（β=.35, p<.001）。しかし、性行動の経験に関しては、性教育実践による影響低減の効果は明確にならなかった。

目的 7-2　学校でのメディア教育実践の効果

学校でのメディアの安全な利用に関する教育実践によってネット利用の影響が低減されるかを検討するために、1~2 回目調査の間（2 回目調査の直近の 3 か月間）に、学校でメディア教育に関する授業や講演を受けた「メディア教育あり群」と、受けなかった・受けたかわからない「メディア教育なし群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響におけるメディア教育実践の効果

■男女ともにおいて、全般的ネット利用が「性の現状」を活発な方向へ認識させ、性意識を保守化させる影響は、学校でのメディア教育実践により低減される場合が多かった。

男子の結果では、同年代男子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「メディア教育あり群」では有意に至らず、「同なし群」でのみ見られた（β=.15, p<.01）。女子の結果では、性的寛容さ（β=-.11, p<.01）へのネット利用の影響は「同なし群」でのみ見られ、「メディア教育あり群」では有意に至らなかったが、性的マイノリティに対する偏見への影響に関しては、メディア教育の効果は明確にならなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響におけるメディア教育実践の効果

■男子において、ネットを介した性的コンテンツ接触が「性の現状」を活発な方向へ認識させ、性行動の経験を促進する影響は、学校でのメディア教育実践により低減される場合が多かった。

男子の結果では、同年代女子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「メディア教育あり群」では有意に至らず、「同なし群」でのみ見られた（β=.33, p<.001）。同様に、

コンドームあり、コンドームなし、およびセックス全体の経験への影響は「同なし群」でのみ有意となった（OR=1.11~1.20, p<.01）。ペッティング経験への影響については、効果が明確にならなかった。

目的 8（ネット利用の影響の強さが、科学的に正しい性知識量と性的メディア・リテラシの個人差により異なるかを検討する）の結果

目的 8-1　科学的に正しい性知識量の効果

科学的に正しい性知識量の高低によって、ネット利用の影響が強まる／弱まるのかを検討するために、1 回目調査において性知識得点が高かった「性知識高群」と、得点が低かった「性知識低群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響における科学的に正しい性知識量の効果

■男子において、全般的ネット利用が「性の現状」を活発な方向へ認識させる影響は、性知識が高い場合に低減されていた。

男子の結果では、同年代男子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「知識高群」では有意に至らず、「知識低群」でのみ見られた（β=.19, p<.01）。女子の性意識に対する影響に関しては、効果が明確にならなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響における科学的に正しい性知識の効果

■男子において、ネットを介した性的コンテンツ接触が性行動を促進する影響は、性知識が高い場合に低減されていたが、「性の現状」を活発な方向へ認識させる影響では逆効果となっていた。

男子の結果では、「知識低群」において、ペッティング、コンドームありのセックス、コンドームなしのセックス、セックス全体の経験への影響が有意であった（OR=1.14~1.24, p<.001~.05）。一方、「知識高群」では、コンドームありのセックスのみ有意であったが、影響は「知識低群」に比べ弱まっていた（OR=1.11, p<.05）。しかし、同年代女子のセックス経験率の推定に対する影響は、「知識低群」では見られず、「知識高群」でのみ見られた（β=.49, p<.001）。

目的 8-2　性的メディア・リテラシの効果

ネット上の性に関する言説に対する批判的思考力である性的なメディア・リテラシの高低によって、ネット利用の影響が強まる／弱まるのかを検討するために、1 回目調査においてリテラシ得点が高かった「リテラシ高群」と、得点が低かった「リテラシ低群」に分け、分析を行った。

（1）全般的ネット利用の影響における性的メディア・リテラシの効果

■全般的ネット利用が「性の現状」を活発な方向へ認識させ、性意識を保守化させる影響は、性的メディア・リテラシが高い場合に低減される場合が多かった。

男子の結果では、同年代男子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「リテラシ高群」では有意に至らず、「リテラシ低群」でのみ見られた（β=.18, p<.01）。女子の結果では、性的マイノリティに対する偏見へのネット利用の影響は「リテラシ低群」でのみ見られ（β=.20, p<.01）、「リテラシ高群」では有意に至らなかった。性的寛容さへの影響に関しては、メディア教育の効果は明確にならなかった。

（2）ネットを介した性的コンテンツ接触の影響における性的メディア・リテラシの効果

■男子において、ネットを介した性的コンテンツ接触が「性の現状」を活発な方向へ認識させ、性行動の経験を促進する影響は、性的メディア・リテラシが高い場合に低減されていた。

男子の結果では、同年代女子のセックス経験率の推定へのネット利用の影響は「リテラシ高群」では有意に至らず、「リテラシ低群」でのみ見られた（β=.38, p<.001）。同様に、ペッティング、コンドームありのセックス、コンドームなしのセックス、セックス全体の経験への影響は「リテラシ低群」でのみ有意となった（OR=1.11~1.40, p<.001~.05）。

5. 研究のまとめ

本項では、研究 1 および本研究から共通して得られた結果を中心に、示唆をまとめる。研究 1 は高校生を対象とした半年間隔のパネル調査であるのに対し、本研究は web 調査モニターを対象とした 3.5 ヶ月間隔のパネル調査であった。そのため、2 つの研究間での結果の違いは調査対象者の属性や調査間隔、調査の場所（学校／web 調査）によるものという解釈は可能であるが、両研究に共通して見られた影響関係は、対象者の属性や調査手法を超えて一貫した効果であると考えられる。

5-1. 性的コンテンツに限らない全般的なネット利用は、男子において同年代の性の現状をより活発な方向へ認識させる影響を持ち、女子において抑制的・保守的な性意識を強める影響がある。

研究 1 においては、全般的なネット利用が、同年代の性の現状を活発な方向に認識させ、特に女子の性行動の進んだ段階を促進し、女子の性意識については抑制的・保守的な方向に影響することが確認された。本研究では、男子において、全般的なネット利用が多いほど、同年代男子のセックス経験を高く推定するようになるという影響が確認されたが、性意識・行動への影響は検出されなかった。女子においては、抑制的・保守的な性意識を強めるという影響のみ確認された。

両研究において共通して得られた、男子における性の現状認識への影響と、女子における抑制的・保守的な性意識への影響は、頑健であると言えよう。

5-2. ネット利用の影響は、性的コンテンツに限定した場合に、男子において同年代の性の現状をより活発な方向へ認識させ、性行動を促進する影響を持つ場合がある。ネット利用の影響について議論する際には、性的コンテンツを区別して考える必要がある。

本研究においてのみ検討した性的コンテンツ接触の影響に関しては、男子において、接触量が多いほど同年代女子のセックス経験率を高く推定するようになり、ペッティング以降の進んだ段階の性行動を促進するという影響が確認された。現状認識やセーファー・セックス経験への影響を即座に悪影響と断じることはできないが、コンドームなしのセックス経験への影響については、性感染症や望まない妊娠の予防の観点からみて、対策が必要と言えるだろう。

一方、女子ではこのような影響は確認されなかった。女子では、ネットを介した性的コンテンツへの接触量そのものが低いため、たとえ影響が存在したとしても検出できるレベルに達していないと考えられる。

5-3. ネットを介さない性的な動画や雑誌への接触は、ネット利用と同程度以上の影響を持つ。性的に促進的か抑制的かの方向に関わらず、性意識・行動への影響を考える上では、従来型のメディアとネットを区別するのではなく、性的コンテンツか否かを区別することが重要である。

本研究においてのみ検討したネットを介さない性的動画・性的雑誌への接触の影響に関しては、男女ともにおいて、性意識・行動の様々な面に影響を及ぼしていた。男子では、性の現状認識と性行動について一貫した促進効果が見られ、ネットを介した性的コンテンツ接触の影響と同程度の効果が確認された。一方女子では、現状認識について一部に性的に促進的な影響が見られたが、保守的な性意識を強める影響が優勢であり、特に性的な雑誌接触の効果は一貫していた。

5-4. 友人・先輩との性的情報交換の影響は、性意識・行動の様々な面に対して促進的な影響を持っている。性的なコンテンツ接触の影響に比べて同程度以上の影響力を持ち、特に女子において大きな影響源となっている。

研究 1 および本研究を通じ、友人・先輩との性的情報交換は、男女ともにおいて、性意識・行動の様々な面に促進的な影響を及ぼしていた。特に、性の現状認識と性行動については一貫した促進効果が見られた。本研究においては、性的なメディア利用では検出されなかった女子の性行動への促進的影響が確認されており、友人・先輩との性的情報交換は女子においては特に大きな影響源となっていると言えるだろう。

5-5. ネットを利用する際に、携帯電話とパソコンのどちらから行うかによって影響の強さは異なるが、それは機器に固有の理由ではなく、より利用量の多いメディアにおいて影響が顕在化するためと考えられる。

研究 1 では、携帯電話からのネット利用をする層が多く、ネット利用の影響もこのグループで強まっていた。一方、本研究では、パソコンからネット利用をする層が多く、同様にネット利用の影響が強まっていた。携帯電話かパソコンかというメディアの違いにより影響力が強まる／弱まると考えるよりも、より身近で利用量の多いメディア（雑誌や DVD 等も含め）での性的コンテンツ接触の影響が、より強く顕在化すると考えるのが適切だろう。

5-6. ネット利用の影響は、パソコンや携帯電話でのフィルタリング設定により防げる場合もあるが、逆効果となる場合もある。フィルタリングだけに頼るのではなく、教育的介入を合わせて行うことが望ましい。

研究 1 では、男子の性の現状認識と女子の性行動へのネット利用の影響は、携帯電話でのフィルタリング・ソフトの設定により弱まる場合が多かったが、女子の「性の現状認識」と「性的マイノリティに対する偏見」へのネット利用の影響については逆効果となっていた。パソコンでのフィルタリング・ソフトの設定は、女子の「性の現状認識」と「性的マイノリティに対する偏見」へのネット利用の影響を弱める効果を持つ一方で、男子の性の現状認識については逆効果となっていた。

本研究では、性的コンテンツ接触の影響は、パソコンでのフィルタリング設定により低減されることが概ね確認されたが、パソコンと携帯電話を問わずフィルタリング設定の有

効性が明確にならない場合、逆効果となる場合もあった。また、研究 1 において概ね有効性が確認された携帯電話のフィルタリング設定の効果は、本研究では明確にならなかった。

フィルタリング設定は、対象者の特性やネット利用の方法、接触するコンテンツ等により、必ずしも有効でない場合もあると考えられる。したがって、フィルタリング設定のみでネット利用の影響を防ごうとするよりは、フィルタリングを設定した上で、適切な教育的指導を実施することが望ましいだろう。

5-7. 学校でのメディア教育と性教育は、促進的か抑制的かに関わらずネット利用の影響を低減する効果が認められる。個人的特性としては、性的メディア・リテラシの育成は一貫した影響低減効果を示した。科学的に正しい性知識の提供は、男子の性的コンテンツ接触が性行動を促進する影響の強さを低減する効果はありそうであるが、今後の検討が必要であろう。

研究 1 と本研究を通じて、学校で実施されるメディア教育は、性的コンテンツか否かに関わらず、概ねネット利用が性意識・行動に及ぼす影響を低減する効果を持っていた。また、メディア教育によって育まれると考えられる個人差としての性的メディア・リテラシも、男女の認識レベルと男子の性行動に対して低減効果を示した。研究 1 において、女子の性行動に対するメディア教育とメディア・リテラシの効果に、一部で逆効果が見られたことには注意が必要だが、全体的な傾向としては有効であると考えてよさそうである。

同様に、学校で実施される性教育も、性的コンテンツか否かに関わらず、ネット利用が性意識・行動に及ぼす影響を低減する場合が多かった。また、科学的に正しい性知識も、同様の有効性を示した。研究 1 においては、学校での性教育は有効な場合が多く見られた一方で、単なる性知識の提供は逆効果となる場合が多かった。本研究で得られた結果との違いが何に起因するかは明確にならないが、総合的に考える場合、学校での性教育は概ね有効であるが、性知識の提供のみの効果については判断を保留するのが安全であろう。